

# 福島県 県外ボランティア募集断念

## 原発事故 「安全確保できない」

東日本巨大地震の発生から10日が経過し、各地でボランティアが活躍する中、福島県災害ボランティアセンターでは、「原発の事故が起き、安全が確保できない」として、県外からのボランティア受け入れを見送らざるを得ない事態となっている。

し、避難所や高齢者宅などで活動するボランティア募集を開始した。20日まで、県内外からの応募は262人に上り、このうち、県外からは在日ブラジル人留学生なども含め162人が応募した。

が漏出した。同センターには初日から県外からの応募が相次いだ。ボランティアの安全を考えて募集を断念した。

巨大地震の影響で県外の避難所に入所した福島県民の数が、21日午前10時現在で2万2700人に上ったことが同県災害対策本部のまとめでわかった。行き先で最も多いのは新潟県で、避難所77か所に7800人がいる。次いで山形県56か所3700人、埼玉県36か

福島県は、地震が発生した翌日の12日に県災害ボランティアセンターを設置

だが、同センター設置日の12日昼に福島第一原発1号機が爆発。続いて、3号機、2号機、4号機と次々と事故が起き、放射性物質



ボランティアの手で仕分けられる救援物資(21日午後、福島県郡山市のビッグパレットふくしま)＝尾賀聡撮影

# AMD A被災者を雇用

## 現地スタッフに復興への意欲、期待

東日本巨大地震の被災地で医療活動をしている国際医療NGO「AMD A(アマムダ)」は、避難所暮らし

にした。アマムダはこれまで、海外で被災者を採用した例はあるが、国内では初めて。

現地は交通網が寸断され、たまたま、阪神大震災時に力になった個人ボランティアの活動が遅れ気味。このため、被災者の復興への意欲を引き出すことに加え、

市内で記者会見して明らか

同県大槌町などで支援活

必要と判断した。